

20140728 関西若手議員の会勉強会 @高砂市

- ・オープンデータの概念は様々

神戸情報大学院大学 2年 谷川

「神戸市の税金どこ行った？」

- ・年収に応じて、税金払っている額が項目ごとに（項目をさらに細分化）わかるサイト
- ・税金はどこへ行ったとは？
- ・イギリスへ行って知った
- ・オープンガバメント
- ・透明性、国民参加、官民連携
- ・OKF=open knowledge foundation
- ・オープンデータを使ったサービスの提供
- ・税金データは何に使われているかわからない
- ・名前わかりにくい、金額多い、項目多い、つまりイメージがわきにくい
- ・1日単位にすることでわかりやすく、リアルに
- ・OKF Jのハッカソンで
- ・横浜市版が日本初
- ・日本版では各自治体でつくっていただけるように
- ・可視化による社会的インパクト
- ・全国自治体1800中、288が手を挙げている。152自治体が公開中
- ・神戸市版をつくった経緯
- ・出身の南あわじより、神戸の方が話題性
- ・住民として何か協力できないかと思った
- ・エンジニアとして
- ・簡単に作れると思ったから
- ・動的に動くので面白い
- ・多くの自治体で作成されているため
- ・つくるに必要なものは？
- ・歳出データ（自治体が公開している）
- ・詳細な項目があればあるほどよい
- ・エンジニア（少し開発経験がある人）
- ・なくても手順書があるので時間かければできる
- ・神戸市版をつくった結果
- ・データではなく、紙でわたされたため、データ化する労力が大変だった
- ・税金項目の名前を変更したので、何に使われているのか勉強する必要
- ・神戸新聞に取り上げられ、上半期アクセス7位に
- ・丹波市で勉強会開催

- ・市議会議員、まちづくり隊、Iターン、HP作成教室講師、サラリーマン
- ・問題点
- ・税金に興味を持って終わり
- ・自治体サイトと連携をとれていない
- ・手順書は公開されているが、作成できていない自治体が多い
- ・次年度予算をどう反映するか（公開された年度しかできていない）
- ・自治体と市民を巻き込んだ勉強会や仕分会を開催中
- ・作成説明
- ・使用する税金項目の名前を検討する
- ・税金の分類を検討する
- ・丹波市では計3回予定（すでに1回開催）
- ・税どこはあくまでツール
- ・自治体が透明性を出すきっかけ
- ・登録すれば、プログラム利用できる

オープンデータ

- ・日本政府のオープンデータ憲章アクションプラン
- ・2013年6月G8サミットでオープンデータ憲章が合意
- ・政府、自治体に向けてガイドライン
- ・データと情報の違い
- ・一つの箱の中＝データ
- ・箱が群れになって＝情報
- ・BI（ERP）、CI
- ・オープンデータ-の5段階
- ・①そのままのデータを公開
- ・②1段階に加え、エクセルやワードで処理可能なデータに公開
- ・オープンデータになると、ウェブを通じて誰でもどこでも閲覧や利用が可能になる
- ・OPD化への第一歩
- ・元データ＝原材料 →データの下ごしらえ（蓄積、格納） 例：税どこ
- ・→ アプリ等を作成して、市民が食べたいように料理する
- ・5374.jp
- ・データ出すときの注意
- ・ライセンス
- ・クリエイティブコモンズ
- ・Code for HYOGO
- ・Civic Tech

- ・それぞれのスキルを用いて、市民が地域の課題解決に向けて取り組む
- ・兵庫県のシビックテックを推進していきたい
- ・アイデアソン・ハッカソン
- ・自治体、「活用方法や効果がわかればデータ出しやすい」
- ・例、ベビーカーや車いすでも入れるお店を探しやすいアプリ等
- ・政務活動費の総額や用途についてわかるサイト
- ・オープンデータを活用（加工・調理）するためには、プログラミング能力が必要
- ・自治体職員、プログラムできる人、活用できる人育てば
- ・プログラム開発業務、今の3分の1の費用でできる
- ・技術者教育

新井イスマイル 34歳

明石工業高等専門学校講師

- ・オープンデータを利用したアプリ
- ・福井県鯖江市が有名
- ・AEDマップ、トイレマップ（世界ではスタンダード）、避難所ナビ
- ・バス路線、原発非難
- ・オープンデータのよいところ
- ・データとして公開していると、使い方は人によって様々
- ・どんな成果物が出てくるかわからない
- ・横浜オープンデータビューア
- ・AR千葉市防災
- ・静岡県ロケ地ガイド、静岡水位マップ
- ・アプリ開発手法
- ・WEBアプリ
- ・ユーザーは、ブラウザがあればアプリのインストールが不要
- ・必要技術：プログラミング、WEBサーバ、データベース、デザイン
- ・スマホアプリ
- ・インターネット人口の過半数がスマホ
- ・その内、過半数がiOS、残りのほとんどがAndroid
- ・必要技術：高度なプログラミング、デザイン
- ・もっと簡単に作れないか？
- ・参考：Link Data.org
- ・チュートリアル
- ・オープンデータはどうあるべきか
- ・アプリ開発はプログラマー

- ・プログラマーは手作業が大嫌い、苦手
- ・データを機械処理するにはデータが構造処理されている必要がある
- ・5スター・オープンデータ
- ・データ形式で5つのランキングがある。
- ・1 PDF 2 excel 3CSV 最低3つ星以上が目安
- ・オープンデータはどう活躍するか
- ・経済活性化と政府、自治体の透明性 UP
- ・例えば、企業情報が分野別に一覧できると周りからのアプローチ増える可能性
- ・イベントスケジュールのオープンデータ化
- ・北助松商店街、飲食店情報（個室あるなし、宴会、予算、料理）
- ・商店街の課題を提示し、予算化して生活環境整備、学生募集
- ・市民参加の階梯（アーンスタイン 1969） ※写真参照

名古屋ナイトストリートアドバイザー

- ・工専の生徒が開発
- ・明るい夜道を案内するアプリ
- ・名古屋市の街路灯データ 10万灯分
- ・名古屋市にデータ提供してもらった。市議が尽力
- ・市で課題を提示し、アプリを公募でつくってもらう。優勝に賞金
- ・